

ヨーロッパにおいて本種の近縁種を樹洞に仕掛けたピットホールトラップを用いて採集する方法はよく用いられているが (Maurizi *et al.*, 2017), 今回のように地表面に埋めたピットホールトラップで本種を採集できた事例は未だに報告されていない。

今回仕掛けたピットホールトラップは写真のように屋根を設置したため (図1), 飛翔していた個体が直接ピットホールトラップの中に入った可能性は低く, 本種が地表を徘徊していた際トラップに落下した可能性が高い。近縁種である *O. eremita* において樹洞だけでなく地表面で活動していることが報告されているが (Chiari *et al.*, 2013), 本種においてはそのような報告は未だになく, 今後研究が進むにつれ, 本種の新たな生態が明らかになるかもしれない。

末尾ながら, ピットホールトラップの設置に協力していただいた京都大学農学研究科森林科学専攻森林生物学研究室の山崎理正助教, 本文の作成に協力していただいた同研究の加藤雅也氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Maurizi, E., A. Campanaro, S. Chiari, M. Maura, F. Mosconi, S. Sabatelli, A. Zauli, P. Audisio and G. M. Carpaneto, 2017. Guidelines for the monitoring of *Osmoderma eremita* and closely related species. *Nature Conservation*, 20: 79–128.
- Chiari, S., Carpaneto, G. M., Zauli, A., Zirpoli, G. M., Audisio, P., & Ranius, T., 2013. Dispersal patterns of a saproxylic beetle, *Osmoderma eremita*, in Mediterranean woodlands. *Insect Conservation and Diversity*, 6(3): 309–318.
- 京都府自然環境保全課, 2015. 京都府レッドデータブック 2015 第一巻 野生動物編. 京都府自然環境保全課, : 366.

(相場寿秀 606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学農学研究科森林科学専攻
森林生物学研究室)

【短報】成虫越冬するハナムグリ2種を確認

筆者は冬季のオサ掘り採集時に, コアオハナムグリとクロハナムグリの成虫を土中より得た。これらのハナムグリが成虫越冬することは知られているが (木村, 1967; 三村, 2011; 酒井, 2012 など), 観察例の報告は少ないようなので, 一例として報告しておく。

コアオハナムグリ *Gametis jucunda* (Faldermann)

1 ex., 岡山県高梁市玉川町玉, 17. XII. 2017, 奥島雄一採集, 倉敷市立自然史博物館保管 (登録番号 KURA JI 153989)。



図1. 土中から掘り出されたコアオハナムグリ。

クロハナムグリ *Glycyphana fulvistemma* Motschulsky
1 ex., 同上 (KURA JI 153990)。

現場は, 標高約 300m の日当たりの良い西側斜面で, 伐採のために一時的に作られた林道沿いの腰下程度の小規模な崖である。土質は花崗岩が風化した真砂土で, やせた土壤である。2種のハナムグリは数メートル内の別の場所から, 崖の上部を崩した際にそれぞれ単独で得られた。付近に幼虫が生育できるような腐食はなく, 成虫が活動後に越冬のために潜ったものと考えられる。なお, 付近の同様の環境からはスジアオゴミムシ *Chlaenius costiger* Chaudoir が6頭得られた。

末筆ながら, 2種のハナムグリの越冬記録について文献をご教示いただき, 記録の報告を勧めていただいた酒井香氏 (東京都) に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 木村欣二, 1967. オサ屋外道録 (II) (主として甲虫類の冬期採集記録), クワガタムシ科, クロツヤムシ科, センチコガネ科, コガネムシ科について. *Insect Magazine*, 東京, (71): 64–68.
- 三村義友, 2011. 初冬の土中から越冬中のコアオハナムグリを採集. *鯉角通信*, 東京, (23): 32.
- 酒井 香, 2012. ハナムグリ亜科 CETONINAE. 日本産コガネムシ上科標準図鑑, pp. 68–74, 308–320. 学研教育出版, 東京.

(奥島雄一 710-0046 倉敷市中央 2-6-1
倉敷市立自然史博物館)

【短報】池間島におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録

池間島ではコマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus acuminatus* Motschulsky, 1859 (以下コマルケシと記す), マルケシゲンゴロウ *H. subtilis* Sharp, 1882 (以下マルケシと記す), オオマルケシゲンゴロウ *H. bonvouloiri* Sharp, 1882 (以下オオマルケシと記す), チビマルケシゲンゴロウ *H. pumilus* Sharp, 1882 (以下チビマルケシと記す), ヤギマルケシゲンゴロウ *H. yagii* Kitayama, Mori et Matsui, 1993 (以下ヤギマルケシと記す) の5種のマルケシゲンゴロウ属(以下マルケシ属と記す)の種が記録されている (Satô & Komada, 1999; 青柳, 2011). 青柳 (2011) では, コマルケシは採集データを伴わない形で表中のリストにのみ掲載されており, マルケシは採集データが掲載されていたもののリストには掲載されていなかった。著者の青柳氏に確認をお願いしたところ, 青柳 (2011) で報告したマルケシはコマルケシの誤りであることをご教示いただいた。したがって, 池

間島で記録されているマルケシ属の種はコマルケシ, オオマルケシ, チビマルケシおよびヤギマルケシの4種ということになる。

筆者らは, 池間島初記録となるサメハダマルケシゲンゴロウ *H. stridulus* Biström, 1997 (以下サメハダと記す) を確認しているの



図1. 池間島産サメハダマルケシゲンゴロウ。



図2. 池間島における両種の生息環境 (池間湿原)。

島初記録として報告する。併せて, 同所的に採集されたコマルケシの情報も追加記録として報告する。

報告に先立ち, 採集にご同行いただいた上野由里代氏 (魚部), 池間島のマルケシゲンゴロウ属についてご教示いただいた沖縄県 RDB 昆虫類分科会委員の青柳克氏に御礼申し上げる。

12 exs. (サメハダ; 図 1), 9exs. (コマルケシ), 沖縄県宮古島市平良池間池間島池間湿原, 9. VIII. 2017, 井上採集・筆者ら保管。

サメハダとコマルケシは池間湿原 (イースプー) で採集し, ごく浅い岸際の植生の中から得られた (図 2)。同所からは, ツヤコツブゲンゴロウ *Canthydrus nitidulus* (Sharp, 1882), オオマルケシ, ミナミツブゲンゴロウ *Laccophilus pulicarius* Sharp 1882, ウスイロシマゲンゴロウ *Prodaticus rhantoides* Sharp, 1882, ヒメフチトリゲンゴロウ *Cybister rugosus* (Macleay, 1825), トビイロゲンゴロウ *C. sugillatus* Erichson, 1834 などのゲンゴロウ上科の種が見られた。

サメハダは, 稲畑 (2016) が奄美大島, 沖縄島, 石垣島, 西表島, 与那国島から記録した後, 石川県, 福井県, 愛知県, 岡山県, 小浜島からも発見された (渡部ほか, 2016; 渡部, 2016; 渡部・保科, 2016; 戸田, 2017; 吉村・渡部, 2017; 末長ほか, 2017)。特に沖縄県の離島部では広域に分布していることから, 過去に記録された標本の再確認やマルケシ属に着目した調査を行うことにより, 今後新規生息地が発見される可能性があると考えられる。

引用文献

- 青柳 克, 2011. 池間島の水生昆虫類. 琉球の昆虫, (35): 95-100.
- 稲畑憲昭, 2016. サメハダマルケシゲンゴロウの日本からの初記録. さやばねニューシリーズ, (21): 46-47.
- Satô, M., & A. Komada, 1999. Records of the aquatic Coleoptera from the Island of Ikema-jima, the Ryukyus. Elytra, Tokyo, 27 (2): 571-572.
- 末長晴輝・渡部晃平・山地 治, 2017. 岡山県におけるサメハダマルケシゲンゴロウとオオマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (28): 51-52.
- 戸田尚希, 2017. サメハダマルケシゲンゴロウが愛知県にも分布. 佳香蝶, 69 (271): 47-48.
- 渡部晃平, 2016. 石川県におけるマルケシゲンゴロウ属の分布. さやばねニューシリーズ, (24): 53-56.
- 渡部晃平・保科英人, 2016. 福井県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの記録と生息地保全に向けた対応. さやばねニューシリーズ, (24): 33-35.
- 渡部晃平・富沢 章・稲畑憲昭, 2016. 本州におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (23): 15-16.
- 吉村優杏・渡部晃平, 2017. 小浜島におけるマルケシゲンゴロウ属 2 種の初記録. さやばねニューシリーズ, (27): 27-28.